

いよいよ師走ですね！前回は初回ということで自己紹介をさせていただきましたが今回のテーマは「地域おこし協力隊とは？」です。興味がある方も全然ないという方も、時間が空いたときにぜひ読んでみてください！

●今回のテーマ「地域おこし協力隊とは？」は、当事者でも説明が難しい！

人口減少や高齢化の著しい地方において地域外の人材を積極的に受け入れ、様々な「地域協力活動」を行ってもらい、地域への定住・定着を図り地域力の維持・強化を目的とする・・・これが地域おこし協力隊についてよくある説明です。

つまりは都会に住む人間が田舎に移住し、ヨソモノ目線で地域の中で生活・仕事をし、任期後（通常1〜3年後）もここに住みたい！と思えば定住。やっぱり嫌だ！と思えば出ていく、というのが地域おこし協力隊制度の流れになります。

●なぜこんな制度ができたの？

過疎化・（特に過疎地域での）高齢化・人口の都市集中化が進む日本。日本の国土の半分以上が過疎地域であるのに対し、過疎地域に住む人口は全体の約8%しかいません。三大都市（特に東京）の人口はどんどん増えていくのに、それ以外の地域は減少する一方なのです。総務省は35年後、過疎地域の人口は現在の半分以上、高

齢化率もさらに上昇すると予想しています。

これらの問題を背景に「地域おこし協力隊制度」がはじまりました！

●全国にどのくらいの協力隊員がいる？

制度が発足した2009年度は89人だったものが、2014年度は約17倍の1511人、これを2016年度には3000人まで増やす支援をすると総務省は方針を示しています。

●地域おこし協力隊って実際何をしているの？

コッが協力隊を説明する上で難しいところ。各地の協力隊がみんな道の駅で働いているわけでももちろんありません。ザックリ分けるとこんな感じになります！

一 農林水産業への従事

二 観光業への従事（地域の魅力PR など）

- 三 地産産品の開発・販売(地元の食材を使つて商品作り など)
- 四 生活住民への支援(移動・買い物サポートなど)
- 五 地域づくり(伝統文化・地域行事の応援 など) 実際は他にもいろいろ！

●どういった人が協力隊になるの？

J-O-I-Nというホームページを見てもうらえれば分かりますが、ほとんどの自治体が応募資格を厳しく問います。志望動機も「自分の経験・能力を地方で生かしたい」「田舎暮らしに憧れている」「生まれ育った地元で働きたい」など人それぞれ。特別な技能はあまり必要とされない反面、個々の積極性を求められることが割と多いです！

●協力隊の給料はどこから出るの？

協力隊を採用すると総務省から「特別地方交付税」をもらうことができ、それが協力隊の給料や活動費となります。ちなみに協力隊と自治体間の雇用形態、所得、休暇制度等は各市町村で異なります。

●なんで赤井川村は協力隊を受け入れるの？

赤井川村は総務省により「あなたの村は過疎地です」という指定を受けているため「地域おこし協力隊制度」の活用を行うことができます。

●協力隊と一般的な企業との違いは？

①仕事が多様多様

協力隊自ら仕事を見つけ活動する場合もあれば、自治体から決まった仕事を与えられる場合もあります。前者であれば(良い意味で)本当に何でもアリの世界。

②個人の能力だけで勤まらな

仕事と生活との距離が近いため、応募側と受入側との相性が重要になります。

③定住・定着がゴール

●さいごに

移住する側としては「地域の人に受け入れてもらえるか」という不安は大きく

受け入れる側としては「アツク誰?」「何しに来たの?」という疑問が必ずあると思います。お互いがお互いに興味を持って楽しむことができれば「地域おこし協力隊」は異質な職業ではなく、地域に馴染み親しんだものになるのでは...と思います！

